

聖なる山と保護地域（講演要旨）

高橋 進

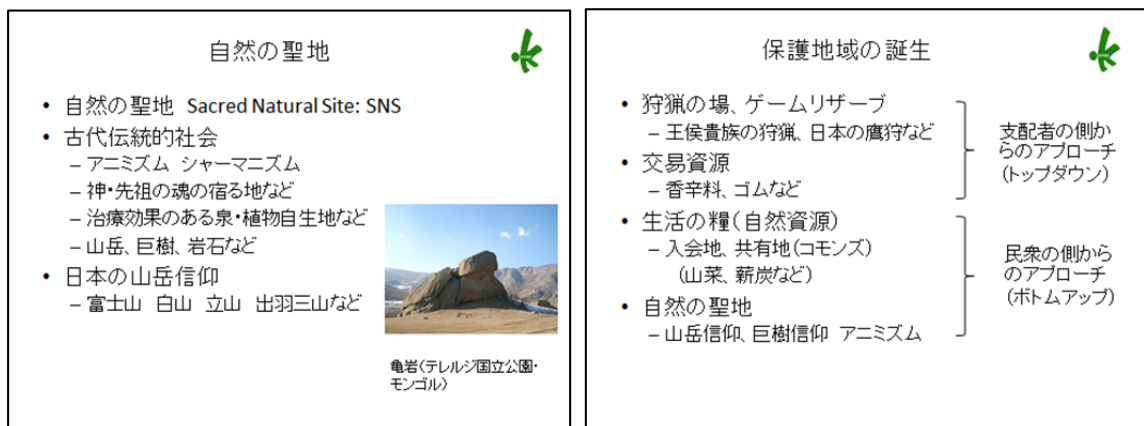
（共栄大学教育学部教授）

1. はじめに

国際学会での研究発表のために訪れたブータンでは、現在でも自然への信仰が生活の中に息吹いていた。自然への信仰、特に聖なる山とその保護地域制度について、私が研究対象として関わってきた世界と日本の事例を紹介し、今後の山岳地の自然保護について参加者の皆様とご一緒に考えてみたい。

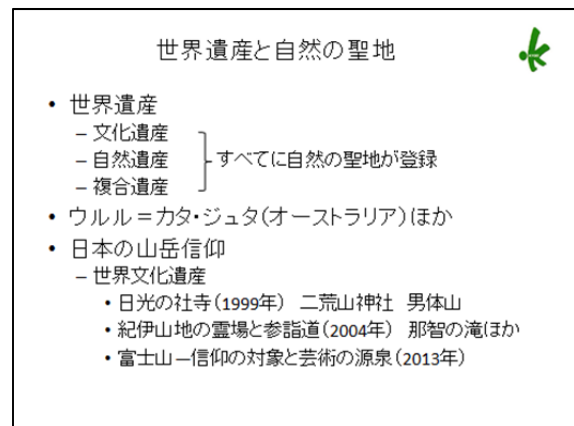
2. 保護地域の誕生と自然の聖地

国立公園などのような近代的な保護地域制度の設立よりもはるか以前から、実質的に自然を保護する仕組みや習わしは、日本のみならず世界に多数存在してきた。そのひとつに、自然の精霊や先祖、あるいは土地や水の保全に関連した自然の聖地がある。アジアヤアフリカにおいては、村落共同体の聖地あるいは禁忌の場所として存在してきた。



3. 世界遺産と自然の聖地



古くから地元において信仰対象となってきた山岳地が世界遺産（文化遺産または自然遺産）に登録されている例も多い。このなかには、トンガリロ山（トンガリロ国立公園）（ニュージーランド）、ウルル＝カタ・ジュタ国立公園（オーストラリア）、峨眉山（中国）などのように、文化遺産と自然遺産の両方の登録基準を有する複合遺産として登録されているものも少なくない。



4. インドネシアの聖山

熱帯林に覆われたインドネシアは、古くからアニミズムが発達してきたが、時代とともに仏教やヒンズー教が伝播・普及してきた。その後のイスラム教伝来にもかかわらず、現代でも山岳地帯、特に火山は信仰の対象となり、聖地として崇められている。ロンボック島の先住民サッサク族から崇められてきたリンジャニ山とジャワ島のプロモ山を紹介する。


インドネシアの聖山 ✦

- リンジャニ山(インドネシア・ロンボック島)
 - リンジャニ山国立公園
 - 1997年指定 面積 約41,330ha
 - リンジャニ山(3,726m
 - インドネシアで第3位) 神の山
- プロモ山(インドネシア・ジャワ島東部)
 - プロモ・デンゲル・スメル国立公園
 - 1982年指定 面積 約50,276ha
 - スメル山(3,676m ジャワ島最高峰)
 - プロモ山(2,392m)
 - デンゲル火山群

5. 植物名と山岳信仰地

植物の和名にも山地名が付されたものが多い。植物和名の接頭辞を分類してみると、動植物名、地名、色彩、物品、大小などの形容詞、数字などとともに、山地・山岳名を冠した植物も多い。山地・山岳名に関する接頭辞は 65 分類で、植物種数の多いものをあげると、イブキ(伊吹山)(22 種)、フジ(富士山)(19 種)、ハクサン(白山)(18 種)などとなる。これらの山岳名のうち、96.9%が国立公園などの保護地域に指定されており、その多くは古来の山岳信仰の対象地でもあった。

植物名と山岳信仰地 ✦

- 植物和名『植物目録』(環境庁 1987年)
 - 高等植物8,000種 → 接頭辞
 - 動物名、地名、形容詞(色彩、大小、物品など)、数字など 701分類
- 山地・山岳名 65分類
 - イブキ(伊吹山)22種、フジ(富士山)19種、ハクサン(白山)18種、ハコネ(箱根)16種、ニッコウ(日光)15種、アボイ(アボイ岳)12種、リシリ(利尻岳、利尻島)12種、キリシマ(霧島山)12種、ヒダカ(日高山脈)11種、アマギ(天城山)11種、オゼ(尾瀬)11種

高橋進(1991)『植物和名接頭辞考 ―植物和名の接頭辞による自然と人間―』
森林文化研究12 pp.133-142 ハクサンチドリ

6. 富士山世界文化遺産

2013年6月には、富士山が「富士山 ―信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録された。縄文時代には既に富士山を遥拝していたと考えられる遺跡も発見されている。静岡県学術委員会委員として富士山の世界遺産登録に関わってきた立場から、聖なる山としての富士山と世界遺産登録について紹介する。

富士山世界文化遺産 ✦

- 日本一の名峰
 - 信仰対象
 - 芸術(文学・美術など)
 - 意匠(商標など)
- 富士山推薦のコンセプトと評価基準
 - 「富士山信仰」という固有の文化的伝統(評価基準iii)
 - 世界的な「名山」としての景観(評価基準iv)
 - 顕著な普遍的意義を持つ芸術作品(評価基準vi)
- 自然遺産、文化遺産、複合遺産
- 富士山の顕著な普遍的価値の証明
 - 学術的証明
 - 類似世界遺産との比較(国内外)

7. おわりに ―現代の聖山と自然保護

我が国における登山は、生活や信仰との関わりとしての登山から、近代のスポーツ・レクリエーション登山へと変遷してきた。私が全国組織の会長を務めている“巨樹”も、信仰の対象を含め、人々の生活との深い関わりの中で保存されてきた。一方で現代では、落ち葉問題などから、保存にさえ反対する動きもある。聖なる山の自然保護のために、現代流の登拝と遥拝など、聖なる山の新たな価値と役割を考えてみたい。

現代の聖山と自然保護 ✦

- 日本における登山(山との関わり)の変遷
- 巨樹信仰とNIMBY
- 聖山の新たな価値



加茂の大クス(徳島県つるぎ町) 湘南海岸のダイヤモンド富士(左)と撮影風景(神奈川県茅ヶ崎市 2014年4月)

【参考文献】

- 高橋進「聖なる山 ―自然公園と信仰・聖地」国立公園 718 pp.3-7 (2013年11月)
- 高橋進『生物多様性と保護地域の国際関係 対立から共生へ』明石書店 (2014年3月)